映像で読み解く夕張

Yubari in Video Chronicle

青木　隆夫

1．夕張の現状について

昨年（2006 年）6 月下旬に夕張市は財政再建団体となる申請をすると発表しました．それから半年間，地域と地域の環境が大きく変わってきています．夕張の問題は色々なのですが，マスコミには格好の餌食になっています．

今一番大きな問題は再建案がどういう形で組まれるのかというところです．今はちょうど夕張市内で懇談会や住民説明会が開かれ，夕張市のほうから草案の説明をして住民の理解をもらうという行脚をやっているところです．しかし，地域の理解をえるにはまだまだです．特に市の施設関係がことごとく閉鎖，または休止ということになったことと，あとは市民の生活に関係する，住宅，水道ですとか，そのような公共料金も値上げするというような案になっていますので住民の抵抗も比較的に大きいというところです．

2．ご自身の略歴

私は 1980（昭和 55）年に夕張にまいりました．夕張市石炭博物館の学芸担当ということで夕張に住み続け，今年で 26 年になります．その間，色々な資料を集めたり，見たりしてきたのですが，特に空知の産炭地という地域のなかで石炭や産業史などをやっていますと，どうしても財政再建のような過程や時代が来ることが，ある程度は予想されていました．26～27 年前からすでにそのような話は出ていました．結局こうして，再建団体入りという事態を目の当たりにするということになったのですが，気がつくと自分の職場も無くなっていたというおまけまでついてしまいました．そのようなわけで昨年 11 月に夕張市が財政再建を表明して，急遽，市の施設を休廃するという流れになりました．

昨年から吉岡先生と力を合わせて，石炭博物館を何とか再開するために，新たに NPO の形で運営をしようと今準備を進めております．

3．炭坑の盛衰と夕張

とりあえず今日は夕張を映像で読み解くという形で報告をさせていただこうと思います．

今日ご覧いただくのが 1970 年代の夕張の町です．ちょうど昭和 40 年代で，ある程度石炭産業の集約化が進行している時期です．夕張市ではテレビが普及する時期で中継局ができたということで，記念に作った市の PR 映像です．この映像は他に産炭地，歌志内など

Aoki Takao　元夕張市石炭の歴史村・石炭博物館長

があり，並べてみると結構産炭地の時代的な様子がわかる映像になっています．しかし，如何せん内容的には市のPRという側面が強いので，そのまま受け止めてしますと誤解も生まれるのかなという感じがあります．とりあえず，観ていただきながら合間にコメントをさせていただきますのでよろしくお願いいたします．

この時期（昭和40年代）には市内の炭鉱もある程度しっかりと基盤をおいていました．ここから急速に，昭和50年代に入るとある程度集約化が進んでいくということですね．最終的には北炭系は夕張新炭鉱に大体が集約されました．それから三菱，大夕張炭鉱は南大夕張炭鉱に集約されました．このように昭和40年代半ばには，ある程度の集約が進んだという時期になっています．最終的には1990年に三菱の南大夕張が閉山して，地域の炭鉱というのは完全に消滅したわけなのですが，その間に人口も大きく変動しました．大体が流出という形ですね．同時に同じ夕張の中での移動がありました．新炭鉱の場合，清水沢の清陵町という地区に炭鉱住宅地を造成しましたので，いろいろなところから，そこへ移動してきました．そして，さっき映像の冒頭にありました本町地区の炭鉱労働者の人口がそちらへシフトしたという形ですね．地域の構成自体が変わっていくということでした．

4．夕張の交通整備

炭鉱の労働者の所属は，時代ごとに変化が出て来ます．例えば昭和28年当時は，保安帽はヘルメットではなく坑内帽は布製でした．足は地下足袋，30年代以降になると保安靴，革製の少し厚めのものに変わっていくのです．また，道具類はその時代が見えてくるものがあります．映像で石勝線が取り上げられていました．夕張というのは袋小路の地域ですので，戦後の行政は道路を付けて交通網を夕張へ引っ張ろうとした．その意味でも石勝線というのはとても期待されていました．1980年代に，一応開通はするのですが，あまり地域の経済的効果というのは出なかったような形です．まあ，それでも一応夕張の中を通過するということで，多少の効果はあったのかもしれません．

他に新しい道路として，栗沢の万字炭鉱があったところへ抜ける道路，そして紅葉山から穂別へ抜ける道路，現在の274号線ですね，そこも市として開発を進めました．

5．山間地の地域開発の困難

とにかく何とか袋小路だった地域を脱却したい，これは戦後，歴代の行政の柱ですね．大体そのあたりのめどがついた時期に，観光事業に過大な投資をしてしまう，それが昨年バーストしてしまったという格好です．産業が石炭から撤退していく流れの中で，産炭地の自治体の市長というのは焦りがあったというのか，映像の中にもありましたが工業団地の造成ですとか，産炭地というのは大体同じような形で展開していくのです．ただ，思うようにいかず，ペンペン草が生えるような工業団地が広がっているのです．映像にあったように山間部，谷間はどうしても地域が造成される平坦な場所がとれないのです．なかなか地域開発は難しいのですが，それをただ見ているわけにもいかないと，行政関係がいろいろな事業に着手してしまう．大体，効率は良くなくて5割～6割は失敗してしまうのですが，それを繰り返し，繰り返しやってきて最後にこのようになってしまう．その意味で産炭地自治体としては，ある程度模範的な姿なのかなと思いますね．

6．財政が悪化する旧産炭地

現在，夕張だけではなく歌志内，上砂川，赤平，三笠の旧産炭地といわれるところは同じように財政が悪化しています．上砂川と歌志内についてはかろうじて今年は再建団体を

免れたのです．ただ，収支は完全に悪化しているのですから，何かしら手を打たないと夕張同様，再建団体になってしまう．

炭鉱があった当時と無くなってしまってからのギャップは大きいです．それから，住民の移動でいくと夕張では約11万の人口が今は約1万で，10万の人口がどこかに動いてしまった．きわめて流出が多いのです．

7．労働者の移動と夕張の地域風土

私の考えでは，夕張の町の特性，地域のエネルギーになったのは人口の移動といいますか，夕張に入ってくる炭鉱労働者の確保が大きかったのではないでしょうか．特に明治期は東北，北陸で何とか2000人を目標に鉱員の募集をするのですが，その年の暮れには2000人の労働者がいなくなってしまう．結局，そっくり入れ替わってしますのです．当時の鉱夫の移動性はそのようなものでした．そのような人の入れ替わりが，炭鉱社会の風土として定着していた感じがします．比較的に，外から来る人を拒まない，閉鎖性がない．むしろ閉鎖性をもっていたのは炭鉱の企業で，住民はおおらかに受け入れていたというようです．それは多分にその辺の背景があったのではと思います．まあ，現在は出て行くばかりで入ってくるということは殆どありませんから，エネルギーも色々な意味で停止していると言えると思います．

付　記

本稿はビデオ映像にコメントをつけるかたちでおこなわれた青木氏の講演記録をもとに編集したものです（SORD事務局）．